

---

# 手紙 -ラブレター-

蒼愛

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

手紙 - ラブレター -

### 【Nコード】

N7530Z

### 【作者名】

蒼愛

### 【あらすじ】

ありがとう。

私に、一通の手紙を残してくれて。

大好きだよ、今でも。



三浦 圭太。

私と同年の男の子。

私たち3人はたまたま近所で「三」と文字が名前についていることから仲良くなった。

時々、からかわれるときもある。

でもそんなときはいつも陽兄が助けてくれた。

その姿は、遅しうかつこよくキラキラしてて、  
そういうところを見て惚れたのだ。

多分、私の立場に誰かが入ったらその人も陽兄に惚れるだろう。  
陽兄は外見も内面もかっこいい。

顔のパーツも揃っていて、モテるだろう。

圭太もモテる。

そんな2人に囲まれて育った私は、よく一定の質問をされる。

「彩ってどっち派?! 陽君? 圭太?!」

「どっちと付き合ってるの?!」  
など・・・。

正直言っただけの迷惑。  
疲れる。

でも、時折嬉しく思うときもある。

「陽君と付き合ってるの?!」

「彩いいなあ、あんなにかっこいい人と付き合ってるなんて。」  
とか。

陽兄との事を言われると、すごくうれしい。

それは、私がただ思っているだけ。  
でもいいの。

”あの日までは。

4

## Story? Prologue・(後書き)

どうもっ！

蒼愛です(´・？・？´)

しろ - との作品を読んでいただき有り難う御座いますっ m m ＊  
週01のぺ - スで更新するかもですが、宜しく願いします！

(´・・・´)

From・Ao



陽兄は行くのかな？

「馬路か！俺、絶対行くわ！」

約5秒程で答えた陽兄。

「馬路で？！サンキュー！彩は来るか？？」

陽兄、居るもんね。

「もちろんっ！圭太の初ライブだよ？！あったりまえじゃん！」  
私も行くことにした。

圭太には申し訳ないけど、私が行くのはライブ目当てではない。  
ただ単に、“陽兄と一緒にクリスマスを過ごしたい”だけ。  
ある意味、圭太には感謝してます。  
ライ・・・いや、クリスマス楽しみだな。

学校帰りに、陽兄の高校の校門前で陽兄を待った。

これは学校がある日の日課。

いつも、陽兄と帰る。

「彩！」

聞き覚えのある声に呼ばれた私。

相手は、もちろん

「陽兄！」

私は陽兄のもとへ走った。

「ごめん、待った？授業長引いちゃった。」  
謝る陽兄。

「許す！」

あーあ、私って陽兄にかなわないなあ。



「陽！」

聞き覚えのない声が聞こえた。

それも、女っぽい声。

遠くから誰かが走って来る。

私の予想は当たりだ。

まさに、女。

「一緒に帰ろおっ！……って誰？このちびっ子。」

この人、陽兄の事好きなのかな？

って言うか、陽兄の事を気安く”陽“って呼ばないでよ。  
気持ちが悪い。

「まさか、陽が好きでここにいるの?!」

当たった。

図星だ。

今、私の顔は真っ赤だろう。

ばれたらどうしよう。

嫌われるかも。

「あ、図星だあ。でも、無理ね。こんなガキじゃ陽に釣り合わないわよ。」

何この人。

そんな事、私だって分かり切ってることだよ。

やめてよ。

やだ、私泣きそう。

「止めるよ、木島。」

誰かが……私をかばってくれてる？

誰だろう。

ああ、やっぱりどんな時も助けてくれるんだね。

陽兄は。

「彩の方がよっぽどお前より俺と釣り合ってると思うけど。」  
「やっぱりかっこいい。」

ありがとう、陽兄。

そういう場面、見せつけちゃって。

私に好きになって欲しいの・・・？

つい期待しちゃう。

「なにそれっ！私の方が陽と釣り合うんだから！こんなガキに釣り合うわけじゃないじゃない？！」

もうやだ。

逃げたい。

「行こう。彩」

陽兄は私の手を握ってどっかへ私を連れて走って行った。

陽兄、私の心読んだ？

私、逃げたいって思ってたんだよ。

なんで、分かったの？

また、私期待しちゃうよ。

ここは、公園だろうか。

ブランコと滑り台などがある。

「ごめんな、彩」

陽兄がまた謝った。

「木島の奴うっとおしいな」

あ、陽兄の愚痴初めて聞いた。

「良いよ、だって本当の事だもん。」

確かに、木島さんの言うことは本当だ。

”  
釣り合わない  
“

”  
ガキ  
“

ちよつと、つらいなあ。

胸が、チクチクするよ。

いづれ、そいつに逢ひつゝいふ。

陽兄。

A 10x10 grid of dots. Asterisks are placed at the following coordinates (row, column): (1,1), (1,9), (2,5), (2,9), (5,5), (5,9), (6,5), (6,9), (9,5), and (9,9). All other positions contain a single dot.

S t o r y ? 知ってるよ、そんな事。(後書き)

はい、まだまだ続くよ！(、・・、)

F r o m . A o



…よく、ここで水遊びしてたよね。

夏の時も、冬の時も。

それで、圭太が一週間も熱が下がらなくて…

と昔の事を回想してたら…

ふわっ……。

上から何か降ってきた。

白くて、冷たくて、ちよつとふわふわしてるような…。

「あっ！！雪だ！」

一人で大声を出してしまい、周りからの視線が痛い。

恥ずかしい、と思って少し橋の下に隠れた。

こんな姿陽兄に見られたらどう思うか…。

ジカンハンドンスギテユク。

時間は16時過ぎ。

おかしい。

陽兄は絶対に約束を守る人なのに…。

何かあったのだろうか。

ちよつと、嫌な予感がした。

inライブハウス。  
ザワザワザワ…

「おいおい、圭太。」

「何すか？」

「幼馴染みちゃんはまだ来ないのか？」

「はあ…。」

何やってんだよ、あいつ等…。

おせ…「ピルルルルル！」

?!電話?

誰だよ、こんな時にさー。

…陽兄の…母ちゃん…から?

「ピルルルルル！」

なんで陽兄の母ちゃんから電話?

「ピルルルルル！」

なんか、嫌な予感が。

「ピルルルルル！」

黒い何かが近くにあるような気がして。

「ピルルルルル！」

出るのが怖い。

「ピルルルルル！」

恐れるな、俺。

「ガチャッ」

怖がるな、俺。

『はい…。』

『圭太君?! 陽が!!!』

慌ててる? 明らかに様子がおかしい。

『落ち着いてください、陽兄がなんだって?』

でも、陽兄の事を伝えてる事は確かだ。

『よっ…陽がつつ!!!』

『え…?』

そんなの、

誰が信じると思うか。

in雪雨川

陽兄…遅いよ。

もう、ライヴ終わるよ…?

本当に…嫌な予感があ…たる?

怖い、怖いよ陽兄。

不安で不安で仕方がないよ…。

その時。

誰かが後ろから私の肩を叩いた。

陽…兄?!

「陽兄?!」

しかし、振り向くと。

そこには陽兄の姿はなく、

圭太の姿が?。



「けっ?! 圭太?! なんでここに?!」

「いいか、彩。落ち着いて聞けよ。」

何、なに、ナニ。

やだ、怖い。

圭太が今から私に向かって言う言葉が。

「陽兄が、死んだ。」

いつのまにかずっと降ってた雪が、大粒の雨に変わっていた。

この川の名前のように。

[illegible]

## S t o r y ? クリスマス。(後書き)

まだまだ続くに決まってんぢゃんかつつ！mm＊  
その君！

…もしかして、気になっていきますでしょうか？！  
なぐんて馬鹿な期待しちゃってすいませんねっry（

F r o m . A o





\*  
。

**S t o r y ? 誰が信じるもんか。 (後書き)**

今年もシクヨロだぜいノノ\*  
更新遅れてすいませんでした。

F r o m . A o



え？

今なんて？

心臓が弱かった？

持病を抱えていたの？

元気だったじゃん。

ずっと、ずっと一緒だったからわかるよ。

病気とかそんなの。

ずっと、我慢してたの？

ツライのに、苦しいのに私たちの前では顔に出さないように我慢してたの？

陽兄：陽兄：。

正直に言ってくればよかったのに。

私たち、対応したのに。

陽兄にとって私たちは頼りのない人だと思ってたの……？

*	:	:
o	:	:
	*	*
	o	o
	:	:
	:	:
	o	:
	:	:
	:	o
	:	:
	:	:
	:	:
*	:	:
o	:	:
		*
	:	o
:	:	:
:	o	:
		o
:	:	:
:	:	:
:	:	:
:	:	:
:	:	:
*	:	*
o	:	o
:	:	:
:	o	:
:	:	o
:	:	:
:	:	:
:	:	:
*	:	*
o	:	o
:	:	:
:	o	:
:	:	o
:	:	:
:	:	:
:	:	:



S t o r y ? 頼りないの? (後書き)

更新: 遅れてすみませんm(\_\_\_\_\_)m  
次回からはなるべくですけど、早めに更新するようによつにします。  
本作の方も終わりましたしry( )

F r o m . A o

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n7530z/>

---

手紙 -ラブレター-

2012年1月8日18時51分発行